

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2256780012		
法人名	藤友五幸会		
事業所名	グループホーム 和らぎの家	ユニット名	1F
所在地	静岡県磐田市大久保508-24		
自己評価作成日	平成30年6月1日	評価結果市町村受理日	平成30年9月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2256780012-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年6月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・理念を基に自らが受けたいと思う寄り添った関わりが出来る様努力している。 ・食事をするスペースと各々ゆったりと過ごすことが出来るフロアのスペースに分かれておりくつろぐ場所と食事をする場所とでメリハリがある。 ・家庭的な雰囲気を大切にしている。 ・入浴の曜日は決まっておらず毎日入浴を実施している。 ・近くに総合病院があり利用しやすい。 ・職員教育学ぶ事が出来る環境が設けられている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は市立病院や同じ法人である介護老人保健施設に隣接しており、緊急時の対応や施設からの応援を受けやすい環境にある。事業所のホールはテーブル席とソファー席に分かれており、食事やリラクセスする等生活の場面での居場所が設けられ、入居者が自由な時間を過ごせるように配慮されている。また認知症特有の症状に対して、行動の制限などを行うことなく、本人の生活上の癖やこだわりを利用して対応するなど、質の高い介護が行われていることが確認できた。法人内での勉強会の開催や介護福祉士試験対策の勉強会を行い、介護の質の向上の一助となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ理念を常に意識し実践に繋がられる様意識はしている。	「自らが受けたい医療と福祉の創造」をグループ理念としている。理念に則り各法人が事業目標を立案し、さらに個々の職員が個人目標を掲げている。これにより職員全員が理念を意識しながら業務にあたる体制になっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設内で開催する行事に地域の方を招いたり、ボランティアの方に依頼をして出し物を行って頂いたり毎月読み聞かせに来て頂いたりしている。地域のお祭りにも参加させて頂いている。	秋祭りでは屋台の引き回しが事業所の駐車場に止まるなど、利用者も参加できる催しとなっている。事業所の防災訓練に地域の方の参加が得られるよう話し合いを行っており、実現が期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在取り組んでいる事がなく今後どのように地域の方との繋がりを作っていけばよいか検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動報告を行っている中でアクシデント報告、行事開催のお知らせやボランティアの受け入れに対して等さまざまな報告、話し合いをする中で行事への協力、アドバイスを頂いている。	年間事業計画の立案に際して、ボランティアの情報を得るなどの取組みがある。自治会や市担当課・地域包括支援センターより参加があるが、地域と家族が折り合う開催日時の設定が困難で、家族の参加が得られていない実情がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いている。介護相談員を毎月受け入れしている。	運営推進会議に参加した担当課の職員に運営についての意見を求めている。最近では、事業所に不審電話があった際の対応法についてのアドバイスを求める事例が確認できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。玄関の施錠は9時～17時はしていない。	身体拘束委員会をグループや法人で開催し、話し合いを行っている。徘徊のある利用者にも行動制限を行うことなく、適度な距離感を保ち接している。具体的な対応法はユニット会議や随時職員間で検討されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を改めて設けてはいないが意識はしている。ご本人の変化、身体の観察を意識して行っている。自宅での様子は把握し辛い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなく理解と活用は出来ているとは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者よりご家族様へ説明し改定時も説明会を行い質問にはその都度回答している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケートを行い結果を公表し対応策を考え対応している。また、苦情相談窓口があることをお伝えし意見を頂いたことに対しては運営に反映させている。	投書箱を設置している。職員の顔と名前がわからない、一致しないとの投書があり、職員の写真と名前を事業所に掲示する対応を取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会時に報告をし、意見を聞いている。面談時にも意見を聞き少しずつではあるが反映させている。	事業所の職員全員が出席する定例会を月に1回開催し、他に年2回個別面談を行い職員の意見を聞き取る場を設けている。聞き取りにより書類の使用方法が違うとの意見があり、その統一を図ることができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が個々の状況を把握しているかは不明。勤務希望は考慮している。業務の見直しは状況に応じて行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者が個々の力量を把握しているかは不明。法人内、グループ内の研修への参加は希望をとったり、個々の力量に合わせ受ける機会の確保をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内グループ内の研修や評価を行い交流をしてお互いに指摘し合いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面会をし話をしたり、事業所へ見学に来ていただく様にしている。細かな情報まで得られる様に会話を多くしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時や相談時に現状の聞き取りをし、困っている事悩んでいる事、今後の希望を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、入居時に管理者が行っている。生活歴や既往歴、本人、家族の希望・要望をしっかりと把握した上で、その時どの支援が必要で適切であるか判断出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事を見極めその方に合わせてやって頂く事を変え関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所での生活や出来事を面会時やお便りを通じて報告し情報の共有を大切にしている。ご家族の考えにも耳を傾ける様努めている。また無理のない範囲でのご協力、支援を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の協力を得て外出・外泊支援を行っている。イベント開催日にはお知らせしご家族様にも参加して頂いている。	家族の面会時にはゆっくり話ができるように、お茶を出す対応を行っている。また家族に本人の様子や介護の工夫点を伝え、外出や外泊が不安なく行えるよう支援し、入居前の人間関係が継続できる様に工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中でお客様同士の関係性を理解し席順、交流時のグループ作りに配慮している。また、様子観察する中で会話の仲介に入り、決して無理はさせないような関係作りを意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入所になった場合はフォローという事はしていないが入院中の方に対しては様子を聞くために連絡をするなどして関わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と関わる中で希望、意向を聞き取り把握に努めている。困難な場合でも近づける様検討している。発言が少ない方言言葉でのコミュニケーションが難しい方に対しては把握しているとは言い難い。	会話を大切にすることを重視している。老人会への誘いがあり、職員付添いで参加して「満足した」と言われたり、利用者独自の詩に職員が調子を合せて気持ちをほぐすなど、常に思いを汲み取る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族等の情報を職員間で共有している。また、本人との会話を傾聴し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、記録にて職員間で情報を共有している。日頃の観察や記録を通して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な時期に現状を見直しカンファレンスにて互いの意見や疑問を出し合う。本人本位のケアを根底においた支援が出来るプランに反映させている。家人にも意見や希望を伺う。	3か月に一回のモニタリングを行っている。参加者は利用者担当と計画作成者だけではなく、職員全員が参加して行われている。毎回、チェック表を作成し、プランに沿った支援ができているか確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートを使用し行動、日々の様子を記録し共有している。介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内での協力も得てその時のご家族様の意見・要望も聞きサービスの説明をさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア(定期的読み聞かせ、行事ごと)に来所して頂いている。高校生の実習の受け入れも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望に応じた受診が受けられるように支援している。往診医を活用している。ご家族様が受診の支援をしている場合は様子を伝えるメモをお渡しし情報を伝えている。	月1回の往診がある。協力医以外の他医院への受診者が数名いる。家族が付き添う場合は、事業所側と病院側の双がメモを活用し、細かく記入して連絡漏れのないように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師が出勤しており、記録・報告を通じて情報の共有をしている。看護師不在時は対処が遅れる時はあるが24時間オンコール対応となっている為電話で指示仰ぎ介護職が対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族様を通して病院と連絡を取り様子を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、ご家族様の意向を聞き取り話し合い医師の助言を得ながら方針を決めている。職員間でも話し合い情報共有している。現在、積極的に看取りは行っていない。	現在、看取りは行っていない。特に口からの摂取に重点を置き、食事が摂れなくなった時には書面に沿って説明を行っている。昨年度、重度化や終末期の方針の書面が整備できたため、家族への説明や話し合いも積極的に行われるようになった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の入れ替わりがあり、実際に急変時の対応が出来るかは自信がない。現在定期的な訓練も実施されていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施しているが地域の方と一緒にいったことはない為今年度検討している。また、現在マニュアルの整備を行っている。	事業所独自の細かなマニュアルは現在整備を行っている。年2回の火災訓練を行っているが、それ以外の訓練や地域との共同の訓練が行われていない。職員一人ひとりの研修も未整備である。	管理者はマニュアルの整備や職員研修の重要性を把握している。地域との協力関係もなく、訓練時の地域の協力体制は確立できていない。災害が叫ばれている今、早急の整備を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人への挨拶、目線を合わせて表情を見ながらの会話を意識している。相手の気持ちを考え対応している。言葉掛けのタイミングにも気を配っている。職員の心のゆとりも必要であると感じる。	言葉かけの重要性を職員に周知している。利用者と職員が個々に会う時間を増やせるように努力している。スピーチロックが起こらないように、一人ひとりの言動には細心の注意を払うように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で本人のペースを大切にしている。起床時間、食事時間等も無理に他者と同じにはしていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる事したい事の見極め、本人の状態を見て勧めたりし希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着ようすくを一緒に選ぶ。自分で難しい方には注意し介入している。整容は声を掛けたり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる事の見極めをし、楽しみながら切る作業等を行って頂いている。配膳下膳も行って頂いている方も居る。食器拭きも行って頂いている。	食中毒の心配から毎食、食材を配達してもらい、事業所において温め等の2次調理をしている。朝は食材を購入し、職員手造りの朝食を提供している。利用者は配膳や下膳、テーブル拭きの手伝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限をしている方は現在いないが食事量、水分量の把握をする為記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行う様声掛けをしている介助が必要な方へは介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレでの排泄が続けられるよう支援している。オムツ、パット等の見直しもしている。	排泄チェック表を作成し検討を重ね、日中は利用者ほぼ全員が布パンツのみかパット使用になっている。パットのサイズも毎回検討課題とし、利用者の尿量において随時変更をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食での工夫や運動を通して予防に取り組んでいるが結果はなかなか出ない。苦痛なく排便が出来る様必要に応じて医師に相談し薬の調整をして頂いている。毎日排便の有無について申し送りをし気にかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	回数、曜日は決めず入浴して頂いている。お声掛けをしその方のタイミングで入浴出来る様に気を配っている。	基本、午後ならいつでも入れる対応をしており、毎日入浴する利用者もいる。個浴が2つある為、仲の良い利用者同士と一緒に入浴することもある。入浴拒否の強い方には、声掛けや職員対応を変更してできるだけ入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の希望や体調に合わせて休息を取って頂いている。日中もその方の表情等を見て臥床時間を促す等配慮している。寝具の洗濯は週1回は必ず行う。居室の温度調節は適宜行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書、内服一覧表をファイリングしてありいつでも確認が出来る様にしてある。与薬忘れがないように確認表を使用しチェックをしているが現在見直し中。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の興味のあることを聞き提供出来る様努力している。気分転換が出来る様、天気の良い日は散歩や外気浴を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車に乗っての外出支援はあまり出来ていない。地域の行事に参加させて頂く際はご家族様の協力も得ながら外出支援を行っている。	隣接する病院の売店に買い物に出かける利用者がいる。近所に買い物ができる場所はないが、スーパーマーケットへの買い物やドライブには月1回のペースで出かけるようにしている。天気の良い日には、散歩や外気浴に毎日出かけるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には本人がお金を所持する事はしておらず預かっている。財布に小銭を入れて持っている方は居りご家族も理解している。希望に応じて買い物と一緒に行く際はお金を所持し使用出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという希望があれば対応している。手紙のやり取りは行っていないが月1回のお便りにて日々の様子はお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い清潔を保つよう気を配っている。行事等で撮影した写真を居室やフロアに掲示したり壁画を月ごとに変更し季節に合った物を掲示している。	フロアは食堂と居間に分けて、食堂はテーブルとイス、居間にはソファと気分転換を図れるように工夫している。廊下には自分で作成した季節の掲示物があり、居室の入口にはイベント時に撮った利用者自身の写真が貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の落ち着く場所の提供が出来る様仲の良い方や本人の様子、希望を聞きフロアの席や食卓テーブル席を考え配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具を持ち込んで頂いたり、ご本人が過ごしやすい様家具の配置を考えたりしている。	居室は全室南向きで、事業所で用意されているエアコンとベッド以外の物は個々の好みで持ち込んである。自分で作った折り紙が部屋中に飾られていたり、一人用のソファとテーブルが置かれていたりする。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定の方に対しては付き添いをし歩行をする。歩行訓練(散歩)等をし筋力の維持に努めている。できる事は見守り、自立を促している。トイレへスムーズに向かう事が出来る様工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2256780012		
法人名	藤友五幸会		
事業所名	グループホーム 和らぎの家	ユニット名	2F
所在地	静岡県磐田市大久保508-24		
自己評価作成日	平成30年6月1日	評価結果市町村受理日	平成30年9月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2256780012-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年6月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様、お一人おひとりに寄り添うケアを心掛けています。特に入浴は毎日行っており、お客様の希望を聞いて、入浴できる環境を作っています。また、ご自宅で過ごされていた時のような生活リズムに近づけるよう、御家族様とのコミュニケーションを図りながら、生活支援をしています。お客様の嗜好に合わせた食事の提供や買い物支援等を行っております。お客様のケアについて積極的な意見交換の場があり、勉強会にも参加できる環境が整っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ理念を常に意識し実践に繋がられる様意識はしている。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内で開催する行事に地域の方を招いたり、ボランティアの方に来ていただいて出し物をして頂いたり毎月読み聞かせに来ていただいたりしている。地域のお祭りにも参加させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在取り組んでいる事がなく今後どのように地域の方との繋がりを作っていけばよいか検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動報告を行っている中でアクシデント報告、行事開催のお知らせやボランティアの受け入れに対して等さまざまな報告、話し合いをする中で行事への協力、アドバイスを頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いている。介護相談員を毎月受け入れしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を改めて設けてはいないが意識はしている。ご本人の変化、身体の観察を意識して行っている。自宅での様子は把握し辛い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなく理解と活用は出来ているとは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者よりご家族様へ説明し改定時も説明会を行い質問にはその都度回答している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケートを行い結果を公表し対応策を考え対応している。また、苦情相談窓口があることをお伝えし意見を頂いたことに対しては運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会時に報告をし、意見を聞いている。面談時にも意見を聞き少しずつではあるが反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が個々の状況を把握しているかは不明。勤務希望は考慮している。業務の見直しは状況に応じて行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者が個々の力量を把握しているかは不明。法人内、グループ内の研修への参加は希望をとったり、個々の力量に合わせ受ける機会の確保をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内グループ内の研修や評価を行い交流をしてお互いに指摘し合いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り寄り添い、コミュニケーションを図りながら、本人の要望を把握し不安を与えないように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時や相談時に現状の聞き取りをし、困っている事悩んでいる事、今後の希望を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、入居時に管理者が行っている。生活歴や既往歴、本人、家族の希望・要望をしっかりと把握した上で、その時どの支援が必要で適切であるか判断出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事を見極めその方に合わせてやって頂く事を変え関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所での生活や出来事を面会時やお便りを通じて報告し情報の共有を大切にしている。ご家族の考えにも耳を傾ける様努めている。また無理のない範囲でのご協力、支援を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得て外出支援を行っている。また地域の老人会への参加が叶った方もいらっしゃる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中でお客様同士の関係性を理解し席順、交流時のグループ作りに配慮している。また、様子観察する中で会話の仲介に入り、決して無理はさせないような関係作りを意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入所になった場合はフォローという事はしていないが、入院中の方に対しては様子を聞くために連絡をするなどして関わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と関わる中で希望、意向を聞き取り把握に努めている。困難な場合でも近づける様検討している。発言が少ない方言言葉でのコミュニケーションが難しい方に対しては把握しているとは言い難い。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族等の情報を職員間で共有している。また、本人との会話を傾聴し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、記録にて職員間で情報を共有している。日頃の観察や記録を通して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な時期に現状を見直しカンファレンスにて互いの意見や疑問を出し合う。本人本位のケアを根底においた支援が出来るプランに反映させている。家人にも意見や希望を伺う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートを使用し行動、日々の様子を記録し共有している。 介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内での協力も得てその時のご家族様の意見・要望も聞きサービスの説明をさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア(定期的読み聞かせ、行事ごと)に来所して頂いている。高校生の実習の受け入れも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望に応じた受診が受けられるように支援している。往診医を活用している。ご家族様が受診の支援をしている場合は様子を伝えるメモをお渡しし情報を伝えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師が出勤しており、記録・報告を通じて情報の共有をしている。看護師不在時は対処が遅れる時はあるが24時間オンコール対応となっている為電話で指示仰ぎ介護職が対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族様を通して病院と連絡を取り様子を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、ご家族様の意向を聞き取り話し合い医師の助言を得ながら方針を決めている。職員間でも話し合い情報共有している。現在、積極的に看取りは行っていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の入れ替わりがあり、実際に急変時の対応が出来るかは自信がない。現在定期的な訓練も実施されていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施しているが地域の方と一緒にいったことはない為今年度検討している。また、現在マニュアルの整備を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人への挨拶、目線を合わせて表情を見ながらの会話を意識している。相手の気持ちを考えて対応している。言葉掛けのタイミングトーンにも気を配っている。職員の心のゆとりも必要であると感じる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で本人のペースを大切にしている。 起床時間、食事時間等も無理に他者と同じにはしていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる事したい事の見極め、本人の状態を見て勧めたりし希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着ようすくを一緒に選ぶ。自分で難しい方には注意し介入している。整容は声を掛けたり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる事の見極めをし、楽しみながら切る作業等を行って頂いている。配膳下膳も行って頂いている方も居る。食器拭きも行って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が決まっている方に対し、一日の水分摂取量が把握できるよう記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行う様声掛けをしている介助が必要な方へは介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレでの排泄が続けられるよう支援している。オムツ、パット等の見直しも行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食での工夫や運動を通して予防に取り組んでいるが結果はなかなか出ない。苦痛なく排便が出来る様必要に応じて医師に相談し薬の調整をして頂いている。毎日排便の有無について申し送りをし気にかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	回数、曜日は決めず入浴して頂いている。お声掛けをしその方のタイミングで入浴出来る様に気を配っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の希望や体調に合わせて休息を取って頂いている。日中もその方の表情等を見て臥床時間を促す等配慮している。寝具の洗濯は週1回は必ず行う。居室の温度調節は適宜行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書、内服一覧表をファイリングしてありいつでも確認が出来る様にしてある。与薬忘れがないように確認表を使用しチェックをしているが現在見直し中。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事、好きな事を把握し、力に応じて作業提供をしている。役割を持たせる事で喜びや存在価値を感じて頂いている。楽しみの一つとして買い物に出掛け嗜好品を選んで購入して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により美容院、買い物、ドライブ等の支援を行っている。季節の良い時期には散歩や外気浴も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして預かったお金は、職員が管理している。お金を所持したり使えるような支援を考えていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の不安感が強い時には家族の協力を得て電話でやりとりができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度や日当たり等に配慮している。季節を感じられるような壁面装飾を工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓、ソファ席に個人の席を配置している。気の合う方が傍にいられるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた物や好みのものを設置し、本人が一番、居心地が良い空間作りを工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の表示をしている。またL字バーを活用し、自立した生活が送れるよう工夫している。		